

貨幣の内生性と現代貨幣理論 (MMT) における論理不徹底

金井 雄一

〈要旨〉

預金は銀行によって創造されると捉えるMMT は内生的貨幣供給論に立っていると考えられるが、国債発行を巡る議論に関しては外生的貨幣供給論ではないかと思われる主張をしている。このように内生的論理が不徹底になるのは、MMT における貨幣の内生性把握が信用の先行と預金振替決済を土台に据えていないためではないだろうか。本稿はそれを明らかにすべく、貨幣生成には信用関係が不可欠であったことをイングランド銀行の創設時以来の業務から示す。それによって、中央銀行は自由に貨幣量を増減できないこと、それゆえ政府の国債発行にも制約がないとは言えないことを確認したい。

(名古屋大学名誉教授)